



自衛隊埼玉地方協力本部

JAPAN SELF DEFENSE FORCES SAITAMA PROVINCIAL COOPERATION OFFICE

映画館における広報活動



自衛隊埼玉地方協力本部（本部長 山下1佐）は7月22日及び8月6日、映画館ロビーにおける募集広報活動を行った。今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため従来の広報活動が行えない中、埼玉地本初となる映画館での広報活動を実施した。募集対象年齢が多く集まることが予想される映画の公開日に合わせて日程を設定して臨んだ。

広報看板、ポスターを掲示することで視覚に訴えかけるとともに、多数の広報グッズを用意して自衛隊をアピールし、映画上映の前後には広報官による声掛けを実施した。

映画の待ち時間を利用して自衛隊の話聞いてくれた大学生は、「ちょうど進路について考え始めていたところで、詳しく自衛隊の話を知ることが出来て進路選択の幅が広がって嬉しいです。」と感想を話してくれた。また、映画鑑賞目的ではなくSNSで今回のイベントの開催を知り、防衛大学の説明を聞きに来てくれた高校生は、「SNSで募集広報が行われることを知りました。なかなか埼玉地本の本部へ出向く勇気がなかったのですが、近い所で、しかも映画館ロビーという空間で行われることで行きやすさを感じました。」と話してくれた。

募集広報を実施した隊員は、「この高校生だけではなく、SNSを見ました、と声をかけてくれた方が数名おり、SNSの効果を実感することができた。小さいお子様向けには、缶バッジや消しゴム等を入れたガチャを用意して、楽しみながら自衛隊の存在を知って頂くことができた。また、ホームページをリニューアルしたばかりということでホームページに関するアンケートにも多くの方々から協力して頂くことが出来た。感染予防の観点から接触の機会を作ることが難しい時期であるが、手応えを感じる活動となった。引き続き効果的な募集広報を企画し実施していきたい。」と語った。

市街地広報で自衛隊をPR



埼玉地方協力本部朝霞事務所（所長 澤谷3陸佐）は、九月二日（木）～五日（日）の間、JR武蔵野線吉川駅構内において、市街地広報を行った。これは、一般曹候補生受験申込締切直前を捉えた強化施策のひとつでもあり、平日と休日の同一時間帯での実施により、高齢者のみならず、各種年代の駅利用者への周知広報を狙いとして実施した。四日間延べ二十八時間の活動であったが、広報官の呼びかけ等に足を止め聞きいる人や、資料を手にする人等があり、今後の募集情報等の広がりや連鎖などに期待が持てる成果であった。

特に、入隊二年目の新人女性自衛官の助けも借り、女性目線でのPRを行い、同年代やその親世代等への理解促進を図った。防衛省における女性自衛官の活躍の一端を紹介できたことにより、今後の女性の入隊希望者の増加につながられたらと期待している。

また、同日は同市在住の女性募集相談員にも活動支援・協力を得て、駅を利用する市民等への理解促進の一助となっていた。

今後、防衛省への理解獲得等のため、さまざまな角度から創意を凝らして実施し、志願者の増加とやる気満ちた学生等の入隊につながっていききたい。

